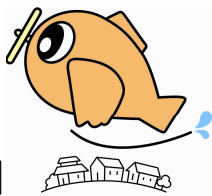


ええまち みはら



【本郷地域版 第21号】

平成24(2012)年2月1日発行

三原市社会福祉協議会

社会福祉法人 三原市社会福祉協議会
本郷地域センター

〒729-0414 三原市下北方1丁目2-12

Tel 86-3607 Fax 60-6064

「復興に向けて動き出す！」

新年を迎え、早いもので1ヶ月が経過しましたが、個人的には震災の影響なのか、いつになく厳かな正月だったように思います。本誌におきましては事始めとなります。身の引き締まる思いです。どうぞ今年もよろしくお願い致します。

さて昨年をふり返りますと、やはり災害の多い年でした。国内のみならず世界各地で発生し、ニュージーランドやトルコの地震では邦人にも犠牲者が出ました。また国内では、東日本大震災、紀伊半島の台風など各地で大きな被害がありました。災害が起こるたびに、日本赤十字社・中央共同募金会の呼びかけによる募金や義援金の活動を行いました。年間を通して途切れることのない災害援助活動に心が痛んだ一年でした。特に、東日本での未曾有の震災には、社会福祉協議会からも人材派遣と言う形で支援をしてまいりました。来月には一年を迎えようとしています。主な支援先となりました宮城県岩沼市では、ようやく復興に向けた取り組みが始まったところではなにかと感じています。

また、日本に住む多くの人々が自然災害や原発に関する事、家族や周囲の方との絆について考え、行動した年ではなかつ

たでしょうか？私自身も、この紙面通して、震災直後に「私たちにできること」、「ふだんのくらし」の大切さ、「家族との絆」、被災地の様子などについて記してきましたが、改めて災害に対する備えや、地域の方々・親戚・家族とのコミュニケーションの大切さを実感致しました。そして何より、社会福祉協議会の組織の持つ、全国的な横のつながりの強さを、身をもって実感致しました。

昨年末、県の社会福祉協議会の主催する東日本大震災の復興支援に関する会議に出席をしたときに、震災直後より現在までの経過報告がありました。岩沼市では現在、応急仮設住宅が3カ所、384戸あり、1,002名の方々が町内会単位で入居されています。その住人の方々へ、私たちが携わった災害ボランティアセンター（現在は、復興支援センターに名称が変わりました。）からニーズ調査が行われました。結果は、「日中することがない」「家具を買ったけれど組み立てられない」「生活の情報が欲しい」と言ったものでした。そこで、社協では仮設住宅エリア毎に「スマイルサロン（集いの場）」づくりをはじめ

めました。またイベントカレンダーや、かわら版による情報提供をしたり、



“見廻り隊”を編成し、ニーズの掘り起こしを行いました。その結果少しずつではありますが、サロンの参加者も増え、いろいろなイベントに於いて皆さんの“笑顔”が戻りつつあるようです。しかし課題も多く、仮設住宅での高齢者の厳寒時季の健康管理や孤立防止、家族や仕事を失った方々への心のケア、「仮設住宅ばかり支援が集中するのは困る」という被災地ニーズへの対応等々、復興が進むにつれて、新たなニーズや課題が出てきており、それに対応する為の人材不足も深刻になっているようです。

そんな中、同じ会議に出席していた福山市社協の女性職員さんが年明け1月より岩沼市社協の職員として宮城県に移り住んで活躍すると言う事を伺いました。ちようど昼食を一緒に摂らせていただいたこともあって、「宮城県に誰か親戚でもあるの？」と尋ねたのですが、何の縁もゆかりもないとの事でした。驚いたと同時に、彼女がそこまでの決断をした気持ち想像すると胸が熱くなりました。今回の震災は、被災された方のみならず携わった方の人生にも大きな転機となりました。そして家族やご近所とのつながりや、場づくりの大切さも知りました。後は、岩沼へ転職する彼女のように、一人ひとりが自分出来ることを行動に移せる一年にしたいと思えます。

福祉活動専門員



新しい朗読ボランティアの女性からエールを送られる青山さん

福山市社会福祉協議会(社協)の嘱託職員「青山奈保美さん(仮名)」が通約約8年勤めた職場を去り、1月から中日本大震災の復興に奮闘する宮城県岩沼市社協に就任する。現地を訪ね、ボランティアの活動を支援するつもりで被災者を近くで応援したいとの熱意が伝わった。

福山市嘱託・青山さん

だ。ことし7月8日22日、福山市社協から岩沼市社協に派遣された市社協員8人、16月31日現在)が死した。現地の仮設住宅約300戸に暮らす約1千人に孤独感が広がる大震災に就任した。手先などを交わす市民のサロンの

宮城に「経験生かしたい」

仮設の集会所の明るくことを提案。サロンはいまも週1回続く。公務を離れても、福山市から岩沼市を訪ねる市民グループの活動を支えた。「地域のために働く人を応援する」。社協の使命の重みを感じた。9月、岩沼市社協が職員採用に特許していることを知った。「経験を生かしたい」。移住を決意した。福山市南本庄田町。市社協では2003年に計5カ月間、臨時職員を務め、04年4月から嘱託職員となった。緊要ある市田と職場を離れる青山さんは「家庭内でも仮設以外で暮らす被災者への支援も必要だ。住民ボランティアの育成にも力を入れる」と被災地復興へのビジョンを描いている。(久保友美)

私は行く被災地社協へ

福山市社協職員さんのニュースは、年末の中国新聞に掲載されました。ご活躍を心よりお祈りしています。

転載：中国新聞 2011年(平成23年)12月28日



岩沼市復興支援の様子は「岩沼市復興支援センタースマイル」のホームページ (<http://msv3151.c-bosai.jp/group.php?gid=10109>) 「岩沼市社会福祉協議会」のホームページ (<http://www6.ocn.ne.jp/~iwshakyo/index.html>) などにてご覧いただけます。